

ご利用者さまのおかげで、毎月 Unicef (ユニセフ) へ寄付をさせていただいています。

7月の寄付額 26,500円

累計金額 378,000円

猛暑、酷暑が続きます。

エアコンの効いた室内でも熱中症は起こります。こまめに水分補給をしましょう。

デイサービス八重桜本店

【七夕】



今年も半年を無事に過ぎ、七夕の日を迎えることが出来ました。本店では例年通り短冊を用意しご利用者さまに願い事を書いていただいたり、笹を切り出して準備し、七日当日のレクリエーションで七夕イベントを行いました。皆さまからの掛け声で織姫様と彦星様が登場したところでまずは写真撮影をしました。こちらもスタッフ手作りの顔出しボードを使い、皆さまに織姫と彦星になっていただき一枚ずつ撮影をしました。笑顔で写る方もいれば恥ずかし気な様子の方も。でも皆さまの表情で撮影されました。その後は短冊の願い事の紹介に。やはり多かったのは「健康でいられますように」「来年もみんなで祝えますように」との願いですが、中には「旅行に行きたい」や「美味しい物をいっぱい食べられますように」という願いも。皆さまそれぞれ思いを込めて書かれたお願い事の数々。少しでも叶うようにとスタッフも祈ります。

【ウクレレ演奏会】

本店のご利用者さまは歌がお好きな方が多いので、この日は本店スタッフ山口さんによるウクレレの演奏会を開催しました。

普段聞く音とは違う音色に最初はあまり反応が無かった会場も、曲がわかるうちに口ずさんで一緒に楽しむ方がちらほらと増えてきます。リンゴの唄。上を向いて歩こう。昔よく聞かれていた曲もウクレレの旋律で改めて聞くと魅力倍增。皆さまじっくりと聞いて楽しまれています。プログラム中間の童謡のコーナーでは曲に合わせて皆でリズム体操も。トントンの声に合わせて肩をたたいたり、膝をたたいたり。自然と体がリズムをとっておられる様子も見られていました。幸せな手をとったところでプログラムは終わる予定が、皆さまからアンコールの希望が。一番聞きたい曲としてリンゴの唄を再演して演奏会は終わりました。



八重桜は何故老人ホームに
デイサービスを併設するのか？

西 勝康

新型コロナウイルスも昨年五類に引き下げられて世の中は日常を取り戻しつつあります。その状況から、コロナ禍で新設を見送ってきた事業者さんたちが今年に入って堰を切ったように高齢者施設を新設、あるいは新設予定することが相継いでいます。これら六件の新施設は各ホームページの情報によりますと全ての施設でデイサービスは併設されています。

桜の広場

私たち八重桜のファミリーモア有料老人ホームでは全てにデイサービスを併設・隣設しています。そうすることで入居者さまはデイサービスを利用しやすくなっています。デイサービスのメリットは機能訓練やレクリエーションで体を動かしたり、脳を使ったりすることで心身の機能維持や向上を期待でき、認知症の予防にも効果的なことです。

す。日中に活動することで、生活リズムを整えることにも繋がります。そのために弊社の施設は全てデイサービスを併設、あるいは隣接させています。ちなみに奈良市内の有料老人ホームでデイサービスを併設しているところはわずかに三割しかありません。事業者の立場から言いますとデイサービスを併設することで建築面積の増大による建築コストの増大、更に運営のための人員基準を満たす人材確保とそれに伴う人件費コストの増大の負担が重くのしかかります。だからといって採算性を重んじるあまり入居される要介護高齢者の住まい方、暮らし方を「なおざり」にして良い訳がないと思います。

私たち八重桜はこれから入居者のみなさまのビューマンライクな生活を護っていきたくと考えています。

デイサービス八重桜 平城

【青空ゼリー】



今年も七夕の日がやって来ました。七夕とは織姫さまと彦星さまが天の川を渡って一年に一度だけ出会う日ですが、例年天気不良の日が多いようです。しかし今年は快晴となりました。

そこで今回のおやつ作りでは、サイダーと牛乳をゼラチンで固めゼリー状にして盛り付けて青空のようなゼリーを作りました。ご利用者さまにはゼリーを盛り付けてもらいました。青空をイメージして作るのは難しく、皆さま、苦労されておられました。職員と一緒に上手に作って仕上げにアイスクリームを乗せて完成です。とても暑い日だったので皆さまおいしそうに食べてくださいました。「おかわりください」などという声も上がり、満足していただけたようで大成功のレクリエーションとなりました。

八重の家

【七夕】

七月といえば七夕ですね。今年も短冊に願いを込めて笹の葉に飾り付けをしました。七夕レクではゼリーを手作りで作りました。ご利用者さまにはカルピスにゼラチンを入れて混ぜてもらいカルピスゼリーを作っていました。できたゼリーを職員がカップに盛り付けます。また、ぶどうゼリーとオレンジゼリーも別に作っており、皆さまを選んでいただいてカルピスゼリーの上に盛り付けました。これをおよつの時間に食べていただいたのですが、冷たくて甘くて皆さま、ペロッとお食べになりました。おかわりをされるご利用者さまもおられ、「また作ろうね」などとお声をいただきました。ゼリーを食べた後は、皆さまと職員と一緒に「たなばたさま」を歌い、お開きしました。短冊に書いたお願いが叶つと良いですね。



デイサービス八重桜 西奈良

【七夕】



七月のイベントといえば「七夕」ですね。西奈良のフロアに大きな笹を用意し、今年も皆さまに短冊へ願い事を書いていただきました。

短冊の色には意味があるようで、赤の短冊は「両親や先祖への感謝」、黄色の短冊は「人間関係に関する事」、青や緑の短冊は「成長」等、願い事にあつた色に願い事を書く事で願いが叶いやすくなるといわれています。「世界平和」といったスケールの大きい願い事から、「○○がほしい」、「夫婦仲良く過ごしたい」とほっこり幸せな気持ちになれる願い事、思いおもいに丁寧に一生懸命書いてくださいました。ちなみに、短冊飾りの提灯は「心を明るく照らす」、網飾りは「幸せを絡めとる」という意味を持つそうですよ。毎年、七夕の時期はお天気に恵まれません、今年も天の川が見られると良いですね。皆さまの願いが叶いますように。

【音楽健康セッション】

今年も梅雨の季節がやってきました。ジメジメ、ムシムシした気分を晴らしていただくこと「音楽健康セッション」を行いました。「音楽健康セッション」とは、対象者の身体の状態や目的に応じて「うたと音楽」の力を活用し、楽しみながら身体能力や認知機能の維持向上を目指すプログラムです。まず「かたつむり」の歌に合わせて指をグー、チョキと動かす脳トレです。どちらの指もグーになったりして、「あー難し〜」と混乱しながらも一生懸命指を動かしておられました。次に懐メロを歌いながら、身体を動かしたり、「かえるのうた」で輪唱したり、様々なエクササイズを行いました。後半はキーボード演奏で初夏に合う歌と一緒に歌い、ご利用者さまからのリクエストにもお答えして「一時間があつという間だったわ」とのお声もいただき、皆さまと楽しい時間が過ごせました。



癒しと原動力



軽井 久美子

八重桜朱雀館で勤務させて頂いて一年十か月になりました。

以前勤務していた介護施設では、事務所から殆ど出ることはなく、ご利用者さまと直接関わることはありませんでした。そのため、朱雀館で勤務し始めた頃は皆さまと関わることに不安もありましたが、フロア見守りや食事介助、レクリエーションの手伝いなどをする中で徐々に不安はなくなりました。

それでも認知症の方への接し方や言葉かけは難しく、まだまだ学ぶことは沢山あります。家に帰ると十五才六か月の愛犬（黒ラブのラン）が迎えてくれます。若い頃はリビングのドア前に座り、尻尾をブンブン振って迎えてくれましたが、今ではベッドに横たわりペロンと一度だけ尻尾を振ってくれます。夕食の支度を始めると「よっこいしょ」と筋肉の落ちたふらふらの足で立ち上がりよろよろと歩いてキッチンの私の足元に横たわり「ご飯はまだ？」と見上げます。

体力・筋力は衰えても食欲だけは若い頃と変わりません。夕食が済むと「フ、フ、フ」と鼻を鳴らし一緒に寝ようと誘います。犬用ベッドに添い寝してやるとピタッと私の体にくっついて寝始めます。つられて私も寝落ちすることもしばしば。私にとっての癒しの時間です。十五年半楽しい時嬉しい時も辛い時も淋しい時も常に私の傍で寄り添ってくれたラン。「ありがとう」の気持ちで溢れます。大きな体を撫でながら「明日も頑張ろう」と。私の原動力であり、日課になりました。

俳句教室発表句（敬称を略します）

西瓜絵に 食欲そそる 会席膳

磯野弘子
器に描かれていたスイカ、見ただけで食欲が刺激されましたね

天の川 おいかけたくなる 後ろ安

江口弘子
そんな気持ちになったとは、誰の姿に似ていたのでしょ

ささげ焼き 青さが美味しい 季節だな

辻 貴久子
ひも状の長いサヤの独特な形が味覚と結びついているのですね

縁側に みんな集合 スイカ食べ

清水玉枝
どの家にも縁側があった、かつての日本の夏の風景でした

風呂桶に スイカばかりと 昼寝かな

田中 葵
水に浸けてスイカが冷えるのを待つ間の幸福なまじろみ

炎暑日に 井戸のスイカに 心急せ

川井弘子
一目散に家を目指すのは、冷えたスイカが待っているからです

こころの遊歩道

事業を担うリーダーは
経営の拠りどころになる
規矩準繩 判断基準を
持たねばならぬ。

渋沢 栄一

八重の家通信 46

みんなの相談窓口

カフェ八重の家では、介護保険サービスに関するよろず相談を受けております。転ばぬ先の杖として、「転倒しやすくなってきた、歩行に関する不安がでてきました」「家の中の掃除が大変になってきました」「買い物に行くのが大変になってきました」「物忘れが始まったような気がします」「二人暮らしが心配になってきました」と相談事は様々です。

そのための介護サービスを受けるには、まず、介護認定を受けていることが前提です。介護未認定の方には介護認定の方法をお伝えし、当社のケアマネージャーの介護認定相談を受けていただいで、昨年三月より令和六年六月までの間に八名の方が介護認定を受けることができました。

デイサービス八重桜のご利用を開始された方が十名、八重桜訪問看護ステーションがらすのご利用が三名、訪問介護の利用が四名、一人暮らしに不安があった二名の方に、共同生活の場所であるLファミリーモア八重の家の案内ができました。そしてLファミリーモア八重の家の入居への事前申し込み予定が三名という状況です。

コロナ禍で外出制限があった皆さまに送り迎え付きで食事ができる場所の提供を始めました。無料送迎付きで昼食代込み、千円のご案内です。カフェでは、頭の体操、転倒予防のための体操をおこなったり、皆さままで会話を楽しんでいただいたりしております。



認知症予防あれこれ ⑩

テーブルゲーム

藤村 俊城

私のいるデイルームでは、一月一日〜五日は、平城宮跡で発見された奈良時代のすごろく「かりうち」を遊んでいたきました。ルールがやや難しいところもありましたが、遊ばれたご利用者さまは「面白い」と言われていました。

昨今テーブルゲームをする機会も減っていると思います。しかしババ抜き、麻雀、将棋など対戦型のテーブルゲームは、脳の賦活活性化の効果が期待でき、認知症予防が期待できます。一番大きく効果が期待できるのは、「他者と交流をしながら遊ぶ」ということです。その他にも手指を使う、勝つためにはどうしたらよいかを必死に考える、「勝ちたい」と思う思考になるなどメリットは多いでしょう。ぜひ複数人が集まる機会がありましたら、ただ喋っているだけではなく、双六でもされてはいかがでしょうか。